

連盟発足三十周年を記念して・・・【夜間保育と子どもたち☆三十年のあゆみ☆出版の思い】

「夜間保育は、子どもの成長・発達に悪影響を及ぼすである」

保育関係者を含め社会一般からのこの指摘は、一九八一（昭和五十六）年の夜間保育制度創設以来、魔女の口から発せられた「悪しき予言」のごとく、夜間保育に携わる私たちを悩ませてきました。

同様の表現として、「夜間保育は、児童福祉の目的である『児童の健全育成』の観点から望ましくない」ともいわれました。

以来三十数年、全国にわずかに八十か所しかない認可夜間保育園は、この予言を払拭するため、各地で孤軍奮闘し、夜間に保育を必要とする子どもたちの幸せを守る実践を積み重ねてきました。また一方で、長年にわたる調査・研究により、この予言が真実ではないことを

明らかにしてきました。

本書は、全国にある数少ない夜間保育の実践者や卒園時・保護者、そして関係者が、それぞれの立場から、夜間保育の真実について書きつづつたものです。読者は、これらを読み進めていかれるうちに、夜間保育は、現実には決して子どもの成長・発達に悪影響を及ぼすものではないことを、むしろ、子どもの成長・発達に悪影響を及ぼす環境を改善し、子どもの健全育成に資するものであることを、感じ取っていただけるはずです。夜間保育が望ましくないのではなく、夜間保育を必要とする子どもの置かれた環境が望ましくないものであり、その厳しい環境に置かれた子どもを夜間保育によって少しでも望ましい状態に変えることが児童福祉の精神であることも分かっていただけのことでしょう。その意味で、認可夜間保育園は、子どもにとってもまたその保護者にとっても、“砂漠のオアシス”であり、“サライ”として存在するのです。

全国夜間保育園連盟では、連盟創立30周年に当たり、記念誌を発刊することにいたしました。それも、単なる内部向けの記念誌ではなく、より広く外部の多くの方に夜間保育を知っていただくための記念誌として発刊することにしました。

保育界は今、大揺れの時代を迎えています。二〇一五（平成二十七）年度からは、子ども・子育て支援新制度が開始される予定で、現在子ども・子育て会議が急ピッチで進められています。しかし、新制度そのものがどうなるのか今の段階でも詳細がわからず、ましてや夜間保育のゆくえはそれこそ暗闇の中です。この時期に当たり、これまで三十年間の全国の認可夜間保育園の歴史や実践・成果を記録として残しておくことは意義のあることだと考えます。

福祉施設としての矜持を保ち、福祉の心を失うことなく、夜間に保育を必要とする子どもたちの幸せをひたすら守り続けようとする全国の認可夜

間保育園の真の姿を、ご覧いただきたく存じます。ひとりでも多くの方に、とりわけ若い保育士、研究者、行政関係者の方にご一読願えれば幸いです。

二〇一四年一月

全国夜間保育園連盟
会長 天久薫